

# おすすめ本の紹介



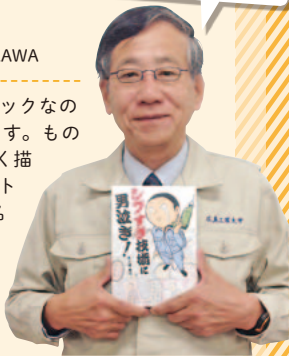
## シブすぎ技術に男泣き!

機械システム工学科  
中田 裕章 先生

見野 栄司 著 / KADOKAWA

新入生にお勧め。コミックなので30分もあれば読めます。もの

づくり日本を支えるエンジニアが生々しく描かれています。『機械設計にパーフェクトは無い』と技術にこだわる“職人”や“名人”が面白い。今後の日本を支える中核エンジニアになる皆さんには、これから大学で何を学ぶべきか、考える契機になります。



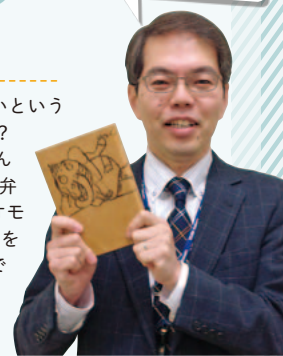
## 夢をかなえるゾウ

情報工学科  
林 孝典 先生

水野 敬也 著 / 飛鳥新社

皆さんにはこうなりたいという夢や目標はありますか？

自分を変えたいと思ったことはありませんか？この自己改革小説では、なぜか関西弁で語る如何わしい神様（これがごっついオモロイ）が、ある平凡な若者に成功の秘訣を伝授。誰でも出来る実践的な習慣ばかりですが、その意味はとっても深い！です。是非ご一読下さい。



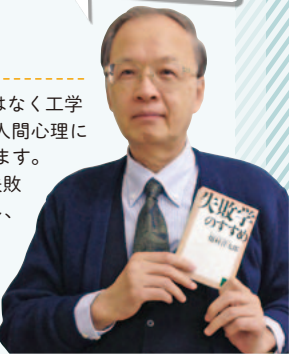
## 失敗学のすすめ

建築デザイン学科  
渡壁 守正 先生

畑村 洋太郎 著 / 講談社

本書は、単なる理屈ではなく工学者である著者の経験や人間心理にも踏み込んだ内容を体系的に解説しています。

皆さんは、失敗を恐れていませんか！失敗は誰もが経験します。何かにチャレンジし、失敗した時こそ、人間力が試されます。そこには、学びと成長のチャンスが存在します。失敗を生きた知識として活用してください！



## (株)貧困大国アメリカ

食品生命科学科  
土屋 義信 先生

堤 未果 著 / 岩波書店

アメリカの食と遺伝子組換え(GM)種子ビジネスの現状が紹介されています。いずれの題材も日本の食品に大きな影響があります。特にGM作物に関しては、より客観的に理解するために、例えば「誤解だらけの遺伝子組み換え作物(小島正美編)」のような別な観点から評論されている本を読まれることも薦めます。

アメリカの食と遺伝子組換え(GM)種子ビジネスの現状が紹介されています。いずれの題材も日本の食品に大きな影響があります。特にGM作物に関しては、より客観的に理解するために、例えば「誤解だらけの遺伝子組み換え作物(小島正美編)」のような別な観点から評論されている本を読まれることも薦めます。



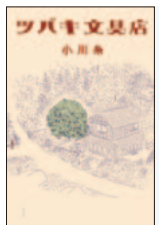
## 図書館「超」活用術

附属図書館  
大杉 勝春

奥野 宣之 著 / 朝日新聞出版

知識を得るために図書館の図書や雑誌の利用は、余りメリットがないし、スマートフォンなどでネット検索すれば早くして便利と考えていませんか。実は私も…。でも、ネットで得られる情報は質量ともに「貧しい」決まり切ったものです。多様で豊かな情報に出会うことができるのが図書館です。壁にぶつかったら『図書館』とこの本を活用してみませんか。

知識を得るために図書館の図書や雑誌の利用は、余りメリットがないし、スマートフォンなどでネット検索すれば早くして便利と考えていませんか。実は私も…。でも、ネットで得られる情報は質量ともに「貧しい」決まり切ったものです。多様で豊かな情報に出会うことができるのが図書館です。壁にぶつかったら『図書館』とこの本を活用してみませんか。



## ツバキ文具店

附属図書館  
三戸 理絵

小川 糸 著 / 幻冬舎

自分の想いを人に伝えることが難しいと思ったことはありませんか？古き良き街を舞台に、依頼主に成り代わって手紙をしたためる代書屋として、人々との触れ合いの中で成長していく主人公の物語です。便利な世の中だからこそ、時には、この物語のようにゆったりとした気分で人と向き合うのもいいかもしれませんね。

自分の想いを人に伝えることが難しいと思ったことはありませんか？古き良き街を舞台に、依頼主に成り代わって手紙をしたためる代書屋として、人々との触れ合いの中で成長していく主人公の物語です。便利な世の中だからこそ、時には、この物語のようにゆったりとした気分で人と向き合うのもいいかもしれませんね。



## ぐうぱあネコミーヤ つづきのはじまり。

電気システム工学科  
坪田 沙織 さん

関 由香 著 / 宝島社

私の尊敬するゼミの先生は、

猫の動画を見て癒されているのだとか。それを聞いて私も悩んでいる時、「癒されたい」と思わず図書館に駆け込み、出会ったのがこれだ。疲れた時、悩んでいる時こそ是非図書館に足を運んで欲しい。そしてこの写真集で癒されて欲しい。図書館は君を歓迎するだろう。



## 夜のピクニック

情報工学科  
末原 隆裕 さん

恩田 陸 著 / 新潮社

夜のピクニックは、高校生活の行事である歩行祭について描かれた小説です。歩行祭とは、全校生徒が夜を徹して80kmもある

長い距離を歩き通すという高校の伝統行事。歩行祭で長い距離を歩く人たちの心情や状況などが細かく描かれているため、とても臨場感を味わうことができました。話の内容が理解しやすく、とても読みやすい小説ですのでぜひ読んでみてください。

